

代表質疑 改めて要求

共産など 大阪市廃止問題、徹底議論を



会見する(左から)山中、武
の両氏。31日、大阪市役所

日本共産党大阪市議団の山中智子団長と市民とつながる・くらしが第一大阪市民議団の武直樹代表は31日、「大阪市廃止・特別区設置の協定書」承認の是非が問われる臨時議会代表質疑を少数会派に認めるよう議長と各会派に求めた件で、各会派の合意にいたらず、「前例による」として認めない旨の回答があったため、市役所で記者会見し、改めて代表質疑を認めるよう求めていくと表明しました。

市議会運営委員会要綱は「交渉会派」を5人以上とし、非交渉会派(5人未満の少数会派)の代表質問を認めていません。

山中氏は「前例による」のと言ったこと

で維新、公明がことわったと聞いている。臨時会の代表質疑自体初めてのことなのに『前例による』は理由にならない」と指摘。「結局、(協定書案が)ひどい中身であるから、市民の前で議論したくない。市民に知られないうちに住民投票をやっけてしまいたいと言わんばかりの態度で、こんなやり方で(市民にとって)大事な問題が議決にいたっていいのか」と訴えました。

武氏は「今回は大阪市が廃止されるかどうかの重要な、全ての市民にかかわる案件で、市民の代表であるどの議員にも等しく質疑の機会が与えられるのはごく当たり前のことだ」と話しました。